

子どもの 見ているつもり? 聞いているつもり? 声を聴く 10

「心地よい暮らし」をつくる

愛知県碧南市
へきなんこども園園長
ユリア

今回は、子どもの声をゆっくり、ゆったりと聴くために、園の職員が“自身の得意”を発揮しながら、「心地よい暮らし」を新しくつくったり、つくり直したりしている日常について、お話ししたいと思います。

発表会の時……

昨年12月最初の土曜日に発表会がありました。その日に向けて、裁縫の得意な職員が子どもたちの衣装の作成や小物作りをしていました。それを見ていた裁縫の苦手な職員から、「みんなが手伝っているのにできなくてすみません。絵だったら描けるかも知れません」と申し出がありました。そして発表会の舞台の背景は、他の絵の得意な職員と2人で見事に描き上げていました。

そして、職員たちは役割に合わせて自分たちが着る服の色も決めていきました。道具の出し入れ担当は舞台の背景が白なので白、担任は目立たないように黒、その他の職員はクリスマスにちなんで、赤か緑の服装を選んでいました。

赤・緑・黒・白……、そんなふうを考えて装ってくれている職員を見て、温かい気持ちになりました。

もちろん、子どもたちの発表は豊かな成長が見られ、感動のうちに幕を下ろしました。

その後、年度末におもちゃの見直しをする中で、パズルのピースが足りないものが見つかり、先ほどの絵の得意な3人はその修復をしてくれました。

素晴らしい!!!

職員の得意の再発見!

パズルの修復を巡る、もう1つのお話です。

大勢の子が遊ぶパズルは、どうしても傷んだり、紛失したりしますね。以前、紙のパズルの1ピースを紛失してしまった時、1人の職員がビックリするぐらい精巧に作ってくれて、絵を描く才能に驚かされました。

最近、乳児が使っている木のパズルが大変なことになっているのに気づき、「あらまあ、ここまでかじっていたのか～。もっと早く気づいてくれるといいな～」と感じていました。ところが、それが“新品”に再生されていたのです。

「え～、どうしたの～?」と絵の得意な職員に訊ねたところ、その職員とは別の職員が素敵に再生してくれたとのことでした。また新たな才能の発見です。

ちなみに2人ともフリーの保育教諭で、時間を見つけて直してくれました。

25年以上前からある、机の脚のガタツキ

テラスに置いている大事な机で、少しでも雨が

降るとすぐに軒下にしまい、出したり入れたりしながら大切に扱ってきました。ここ2、3年は柿渋を塗って、手入れをしています。

今度は、椅子の脚がガタガタするようになったので、人工芝の端切れを丸く切って貼ってみました。ガタツキもなくなり、また調子よく座れて、遊べるようになりました。

長い歳月により角が丸くなった机、あるものを大切に使う、SDGsの考えにも無理なく沿います。「単にものを大事にする」というだけでなく、そうしている大人の姿が、子どもたちにとっては大事なことだと思います。

素材を園庭から集める

昨年のクリスマス前のこと、年長児たちが、園庭で剪定した木の枝を使ってクリスマスの飾りを作っていました。子どもたちが枝の長さを比べ、長い・短いの認識につなげ、ツリーを形作り、上に飾る星を作るのに、園庭から“黄色いもの”を探しに行く活動につなげ、飾りにはまつぼっくりに毛糸を巻いたりしていました。他のクラスでも、紙の型に毛糸を巻いて飾りを作っていました。巻くという作業から腕の動かし方、それぞれの器用さなども見てとれるようです。

またあるクラスでは、担任が自然の素材をたっぷり準備し、自由に材料を選んで、創造性を発揮し、思い思いの作品を作っていました。

どのクラスも子どもたちの自由度が高く、目をキラキラさせて取り組んでいる姿がありました。

部屋（保育室）のレイアウト

新年度を迎えるにあたり、各部屋の担任が室内を整えていきます。子どもの動きを見ながら工夫してレイアウトを決めていくのですが、毎年、新しく素敵なお部屋ができあがります。答えは1つではないということですね。

同じ部屋なのに、なんだか広々として見えたり、ゆったりのびやかな中にも落ち着いたレイアウトにも仕上がっています。

「こってパワースポットですよネ～」

ある日の夕方、キッチン前のテラスに置いてあるガーデンテーブルに、お母さん2人が座っていらっしゃいました。私が通りかかると、「こってパワースポットですよネ～」と言われました。私は驚きつつも嬉しい気持ちで、「そうですよ。なにしろ天使のような子どもたちがいっぱい遊んでいますから」と答えました。

場を美しく整えること、隅を光らせること、見えないところをきれいに整えることなどをみんなで意識し、常に場のエネルギーを高めたいと考えていたので、この言葉はとても嬉しかったです。



①きれいに修復されたパズル

②パワースポット!

*この連載は、和田秀一先生とユリア先生に隔月交替でご執筆いただきます。